

製品名: p15 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15574**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	14kDa

抗原情報

遺伝子名	CDKN2B
別名	CDKN2B; MTS2; Cyclin-dependent kinase 4 inhibitor B; Multiple tumor suppressor 2; MTS-2; p14-INK4b; p15-INK4b; p15INK4B
遺伝子 ID	1030.0
SwissProt ID	P42772
免疫原	抗血清はヒト p15 INK 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 89-138

背景

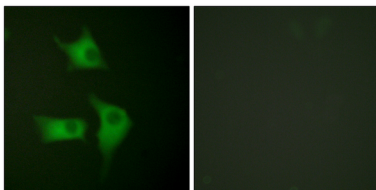
この遺伝子は、様々な腫瘍において頻繁に変異および欠失する領域にある腫瘍抑制遺伝子 CDKN2A に隣接しています。この遺伝子は

サイクリン依存性キナーゼ阻害因子をコードしており、CDK4 または CDK6 と複合体を形成して CDK キナーゼの活性化を阻害するため、コードされているタンパク質は細胞周期 G1 の進行を制御する細胞増殖因子として機能します。この遺伝子の発現は TGF β によって劇的に誘導されることが判明しており、これはこの遺伝子が TGF β 誘導性増殖抑制に関与していることを示唆しています。この遺伝子には、異なるタンパク質をコードする 2 つの選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患：CDKN2B の欠陥は腫瘍形成に関与しています。、機能：CDK4 および CDK6 と強く相互作用します。強力な阻害剤です。TGF- β 誘導性細胞周期停止の潜在的エフェクター。、多型：CDKN2B の遺伝子変異は、ぶどう膜黒色腫[MIM:155720]の感受性の根底にある可能性がある。ぶどう膜黒色腫は、最も一般的な眼悪性腫瘍であり、ぶどう膜メラノサイトの過剰増殖から成り、しばしばぶどう膜母斑が先行する。、類似性：CDKN2 サイクリン依存性キナーゼ阻害因子ファミリーに属する。、類似性：4 つの ANK リピートを含む。、サブユニット：CDKN2B と CDK4 または CDK6 のヘテロ二量体。、

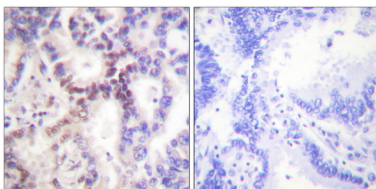
研究分野

Cell_Cycle_G1S;Cell_Cycle_G2M_DNA;TGF-beta;がんにおける経路;小細胞肺がん;

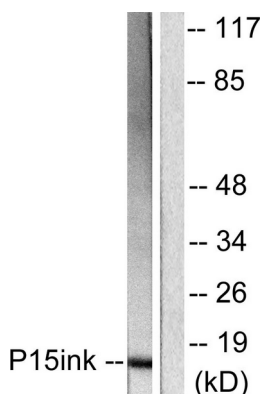
画像データ



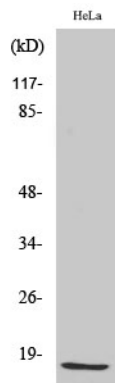
p15 INK 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



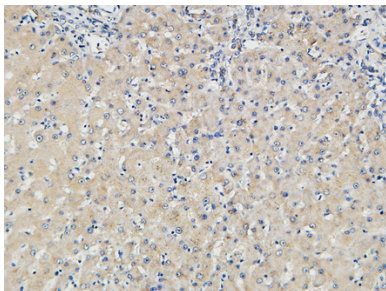
p15 INK 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



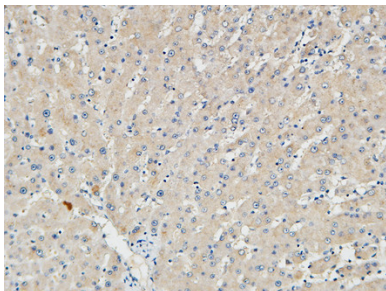
p15 INK 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



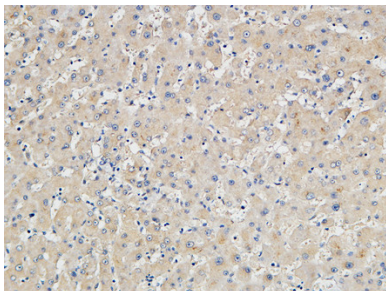
1: 500に希釈した p15 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



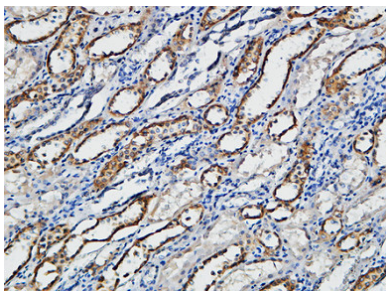
パラフィン包埋ヒト右肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



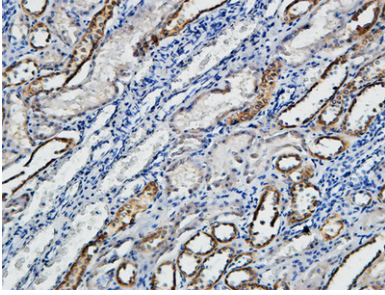
パラフィン包埋ヒト右肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト右肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト右腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト右腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。